

12番（伊藤 守一君） 本定例会におきまして、3点の質問をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

第1点は第5次東員町総合計画につきまして、第2点目は東員町イオンショッピングセンターについて、3点目につきましては敬老会についてでございます。

まず1点目につきまして、東員町第5次総合計画につきまして、総合計画書の2章、主要支所の見通し、35ページ、こちらの大きい本でございますけど、「今後少子高齢化進展により人口減少社会が到来しますが、住みやすいまちづくりを進めることにより現在の人口を維持するとともに、生産年齢人口の増加を図っていきます」と見通しされております。

今の人口につきましては、今年1月末の人口でございますけども、2万5,773名でございます。総合計画書の36ページに、将来人口の推計結果の平成32年、7年後なんですけども、2万5,750名と推計されておりますけども、今現在の人口が、もうそこまでいっているという状況でございます。

定住促進条例等のいい施策がなくなる中、町長のお話は、東員町のよいところを若い方に見ていただき、人を集めたいと、多々発言されております。その施策が見ている、聞いている中では特に明確にされてない、わかりづらいと考えておりますので、再度町長の明確な方針を伺いますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） 伊藤議員の第5次総合計画についてのご質問に、お答えをさせていただきます。

同計画は、計画期間を平成23年度から平成32年度までの10年間とし、その将来像を「みんなが喜び、輝き、幸せを実感できるまち」と掲げ、施策の展開を図ることといたしております。

同時にこの10年間は、本町の大きな課題となる急激な高齢化に突入する時期でございます。少子高齢社会への対応などが極めて厳しい時代でございます。

議員ご指摘のとおり、総合計画には生産年齢人口の増加を図るとの記述がございますが、総合計画がスタートして2年が経過した現時点で考えますと、かなり困難な課題と受け止めざるを得ません。

私といたしましては、成熟期に入った本町におきましては、だれもが安心して住める環境を整え、人口の流出を抑え、持続可能なまちづくりが肝要であると考えております。

例えば子どもの医療費助成や5歳児の幼稚園料の無料化など、子育て支援の充実や、教育環境整備に力を注ぎ、子育て世代にとって住みやすいまちを築いていくことが、若者の定住につながるものと考えております。

いずれにいたしましても、厳しい人口減少社会でございますが、全力で住みよいまちづくりに取り組んでまいりますので、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） またまた理解に苦しむご答弁でございますけども、昨日、3月議会の初日に町長所信表明がございました。その時に2点目の福祉のまちづくり、5点目に子育て支援教育プランの推進等がございましたけども、なぜか1点目はごみの減量でございました。この辺も5点あって、重要ポイントだと思いますけど、順番的に言ったら、1番目が子育て支援教育プランの推進かと私は考えておりましたけども、それはほかへ置きまして、今までの町人口につきましては、昨年3月も質問させていただいておりますけども、やっぱり2万5,000人を下回ると大変な努力というんですか、税金の使い道とか、いろんなところを絞っていけばそれでいいと思うんですけど、私は減った中でも特に気にしているのは生産年齢人口ですね、どれぐらいがいいかという、60歳か70歳がいいのか、私はよくわかりませんが、多分、60～70歳は必要やと思いますけども、私の考えで合ってますかどうか、町長にお尋ねします。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 行政をお預かりして地域のまちづくりをやっていく中で、あるいは町民の方が生活していく中で、当然生産年齢人口が多いのはいいに決まっております。私どもも、できるだけ生産年齢人口を増やそうという思いはあります。

しかし、今の日本の社会を考えますと、人口は減っていく一途ですね。そして全国的に見て生産年齢人口が減っていく。年金の問題でいろいろ言われておりますが、もうすぐに生産年齢人口でいきますと、2人に1人の高齢者を担っていかなければならないような状況になって、下手すると、それを通り過ぎて、1.何人ということになってくるかもわからないような状況の中で、東員町だけが、じゃあ生産年齢人口を増やせるかと言いますと、それは非常に厳しい課題だなという認識をしております。

今は生産を上げていく、あるいは経済を発展させていく時代ではなくて、もう社会が成熟期に入っておりますので、その対応、成熟期の中で、どのような我々生活を模索していくのかという、生産の向上ではなくて、所信表明でも申し上げましたが、幸福度の追求というところへシフトしていかなければならないんじゃないかなというふうなことを考えております。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 大変難しい問題だと思いますけども、所信表明の4点目ですね、笹尾・城山地区の再生も上げていただいておりますけども、南部議

員と島田議員の質問がございましたけど、定住のために若者の誘導、人の循環を促し、地域の再生とされておりまして、その具体策というのは、ここの質問の時、町長のほうからご答弁をもらいましたけど、国土交通省と大和ハウスさん、地域も含めていろんな検討をしていきたいという内容でございましたので、特に私からは、その内容で具体的なスケジュールは組めないかと。

暗にこういう検討をしていきますというだけで、なかなか前へ進まないように思いますので、スケジュール的に計画書ですか、そういうものは組まないのかどうか伺いますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 先ほど、どなたかの答弁にも申し上げましたように、今、役場内の庁舎の中の若い人によって、まちづくりのプロジェクトチームができております。その中で、ネオポリス地区の再生につきましても議論をさせていただいておりまして、それを来年度は町民の方、あるいは学識経験者の方も入れて議論をしていただくという方向で進めております。

したがって、今の時点で何年度にどこへ行くということまでは申し上げられませんが、今、前向きに進んでいるということは確かなことであるというふうに思っております。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 町内のプロジェクトをぜひ早目に進めていただきたいと思えます。

それでは次ですけども、所信表明4点目の中の一緒の場所なんですけども、東員駅をコアとした、東員町しかできない、だれもが住みやすいコンパクトシティという構想もございますけども、これも質問がございましたけども、具体的に昨年でしたか、計画のための委託料というのを上げたような覚えがあるんですけど、その中の調査結果というのを全然いただけないので、その調査結果等について若干伺いますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 先ほども申し上げましたように、職員による、まちづくり戦略構想策定のプロジェクトチームが今でき上がっておりまして、議論をさせていただいて、3月末ぐらいをめぐりに、将来我々が考えていく方針、そしてまちがどういう方向へいくかという方針を出していただく、そんな段取りになっておりまして、これも今どういうスケジュールになっているのかと聞かれても、なかなか現時点で答えられないというのが現状でございまして、できれば4月の早い段階で、議会の皆様にもお知らせできればな、お示しできればなというふうに考えておりますので、できるだけ早く議会にもお示しをさせていただきたいというふうに思います。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） コンパクトシティについては、人口の増はどちらかという望めない、安心・安全なまちづくりかなと考えております。それにつきましても、団地のほうが先か、東員駅の近辺が先かと言われると、難しい問題がございますので、プロジェクトの流れを、4月ですか、どういう流れになっているのかというのを、また報告いただければ結構かと思っておりますので、ひとつよろしく願い申し上げます。

関連でございますが、現在笹尾西の元笹尾第1保育園跡地の活用について、検討されていれば伺いますので、ひとつよろしく願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 旧の笹尾の第1保育園跡地でございますが、現在は、前も申し上げましたように売却の方向で考えております。売却というのも、実は笹尾・城山地区に今高齢化、空洞化の波が押し寄せてきております。その辺の解決のために、その跡地を活用できないか。要は若い人が住めるようなモデルの地域にそこをしていくとか、あるいはそのための代替え地として考えていくとか、まだ確定はしておりませんが、ともかく若い人を笹尾・城山地区に誘導するための土地として利用していきたいというふうに考えております。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 構想段階としてお聞きしておきます。

私も城山・笹尾の人口減というのは、すごいペースで減少しておりますのは、資料を見てスッとわかりますので、こちらがそうですけど、城山は人口減少がすごいですわ。引っ越された方は、どうして引っ越されたかというのも聞いてございませんけども、多分将来的にマンションを買われたり、老人ホームのほうへ移られていくと思っておりますけども、私も東員町は単独ということで、町人口がどんどん2万5,000人、2万4,000人と減っていくのにつきましては大変危惧しておりますので、どうにか皆さんと一緒に若い人を呼んでいきたいと思っております。

特にいろんな施策がある中で、今年の3月で若者定住促進条例は終わります。多分来年3月になったら、またすごいという変ですけども、私は何百名の方が減少していると思うんです。そのつなぎに、若者定住促進条例の復活を強く望みまして、総合計画の人口の質問を終わらせていただきます。

それでは2点目でございます。

東員イオンショッピングセンターについてでございます。

東員イオンショッピングセンターの開発につきましては、昨年12月議会で報告があったように、建設工事が始まり、年末オープンの予定になっております。長深地区におきましては説明会を開催されたと同っております。

議会には12月以降、報告がございませんので、正式なオープン日と、議会報告から何か新しい情報があれば、その内容を伺いますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） ご質問いただきました（仮称）イオンモール東員は、着工前の昨年12月に、事業者のイオンリテール株式会社と工事請負者の鹿島建設株式会社より、地元への工事説明会が開催され、その中で今年1月より建築関係工事に着手をして、本年11月に完成予定だというふうに聞いております。その中で1月に起工式も行われました。

なお、工事期間中につきましては、近隣の皆様に最大限の配慮を行い、安全に工事をされるよう、説明会の場でも、イオンリテール株式会社には申し入れをいたしております。

また、お尋ねの正式な店舗オープンの日どりにつきましては、現在お聞きしておりますのは、本年11月末ということをご予定していると聞いております。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 世界のイオンさんが工事を始めて、オープン日の報告がないというの信じられませんが、企業間の秘密もあってのことやと思いますけど、11月末オープンということで理解しておきます。

それと昨年3月も同じような質問をしているんですけども、再質問で、安全と子どもさんの問題もいろんなことがありますけど、私が一番気にかかるのは雇用の問題でございまして、地元活性化ということで、東員町の方を優先していただく。瀬古泉のY工業さんのときも8名ぐらいでしたかね、社員さんを優先して採用していただいた経緯もございまして、特にイオンさんについても、派遣さん、パートさんになるのかな、雇用していただくことを強く要望したいのですが、町長のお考えを伺いますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 今、東員イオンショッピングセンター環境保全対策調整会議というものを発足させようとしております。これはイオン、それからいなべ警察署、関係自治会、三和地区の自治会、三和小学校のPTA、三和幼稚園、みなみ保育園、行政といったようなメンバーで、今この協議会を立ち上げようというふうにしておりますので、その中で議員言われたことも、申し入れてまいりたいというふうに思っております。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） その委員会の中の申し入れというのは、協定書とかは結ぶんですかね。文書として残すのかどうかというのを伺いますけど、よろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） ちょっとすみません、今、副町長から「あんた忘れてるやないか」と言われたんですが、3月に私がイオンの中部支社のほうへ行きまして、雇用についてもじかに申し入れてこようと。当然、安全対策とか、いろんなものはあります。雇用も含めて、直接申し入れてこようというふうなことも今考えておりまして、もうスケジュールに乗っかっております。そういうことも含めまして、ご理解いただきたいなと思います。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 今質問したとおり、申し入れは絶対してもらわないといかんし、今言いました協定書とかいうのも、その後、結ぶつもりがあるのかないのか伺います。

実は先週、同期ぐらいはもう家におりますので「イオンの工事が始まったやないか」という電話があって「僕はそういう募集が来たら絶対行きます」という電話が入っておりましたので、私も期待しておりますので、協定書をどうですか、結ぶかどうかというのを伺います。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） そういう協定が結べればいいのですが、なかなか相手もあることですし、難しいのかなというふうなことは思っておりますけども、町内の皆さんの雇用につきましては、強く申し入れてまいりたいというふうに思っています。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 申し入れ、よろしく願い申し上げます。

それでは3点目の質問に入らせていただきます。

敬老会につきまして、従来から、ひばりホールで開催されました敬老会につきましては、参加率25%台でございまして、参加率向上のため、昨年より自治会でお願いして開催されました。

私も平成22年度の監査の当時、もうちょっと参加率を上げるようにとは申し入れましたけども、それから実施されたことございまして、ありがたかったなと思っておりますけども、昨年の対象者と参加人員、参加率を伺います。

それとまた、今年も昨年とほぼ同じ予算になっております。同じ規模で開催されるのかどうかを伺いますので、よろしく願いを申し上げます。

議長（藤田 興一君） 岩田利弘生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 伊藤議員の敬老会についてのご質問にお答えさせていただきます。

町主催の敬老会は、自治会や関係諸団体のご協力により、昨年度まで、毎年9月に開催してまいりましたが、参加率が著しく低下していく傾向にあることから、参

加者や関係機関等のご意見と近隣市町の開催状況や内容を参考に、敬老会の見直しをさせていただき、本年度から地域のきずなづくりと高齢者の利便性等を考慮し、身近な地域での開催を自治会へお願いいたしました。

本年度は、23すべての自治会で、さまざまな趣向を凝らした内容で開催していただいております。その結果、対象者数2,470人に対し、参加者数は1,206人、参加率は48.8%、昨年度、町主催での参加率、26.1%と比較いたしますと、22.7%増加し、約1.9倍となっております。

参加率の向上につきましては、自治会や地域の関係者の方々のご協力とご努力の賜物と感謝を申し上げますとともに、身近な地域での開催は、高齢者の方々が参加しやすくなったものと考えております。

本町も年々高齢者は増え、高齢化率の上昇は避けられない状況にありますが、高齢者の方々には、いつまでも健康で、生きがいのある生活を送られることが幸せであると考えておりますので、そのためにも地域のつながりやコミュニティは重要であることから、平成25年度も本年度と同様に各地域で開催をいただきたく、今後も自治会をはじめ、関係者の皆様にご協力をお願いしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 参加率が25%から48.8%、大変多くの皆さんが参加されてありがたいことと思います。

また、今年も昨年同様ということで、ちょっとその辺で副町長に伺いたいんですけど、昨年5月ですね、自治会長というか、行政協力員さんは自治会長さんと今申しますので、自治会長会で1人当たりの補助額が1,000円から1,500円にアップしていただきたいという要請がありました。その場は私はいませんが、自治会長と職員がみえたはずなんですわ。その場が行き詰まり、副町長のほうから、来年度、平成25年、今年は検討しますので、この場は、平成24年度のことですけど、何とかおさめていただきたいという話がございまして、その場はおさまりましたと私は聞いております。昨年同様の規模では、私も自治会長から伺っておりますので、とうてい納得できませんし、約束を反古にされているのと違うかなと思いますので、その辺のことを副町長に伺いたいので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

議長（藤田 興一君） 樋口副町長。

副町長（樋口 和人君） 敬老行事について、自治会長会議での発言についてどうなのかというご質問をいただきました。

正確を期したいので、少し長くなるかもわかりませんが、申しわけございませんが、お許しください。

実は5月、6月ではなくて、7月4日に行政協力員会議、自治会長会議が催されました。初めて私としては、そういった会議に出たわけでございまして、その時に担当部署のほうから、今年の敬老行事については、こういうふうにしていただきたいというような説明がなされたというふうに記憶をしております。しかしながら、ここに議事録が若干あるんですが、どうも自治会長は余りそのことに納得をしておられなかったということがございました。

いろいろやりとりがあった中で、要は説明もなしに勝手に予算を上げて、予算が通って、こういうことは今後も続くのかどうやみたいな話があったものですから、私がちょっとお答えをさせていただいたことがございます。

私がお答えをした背景というのは、実は7月でございます。既にもう予算が議会を通り、いよいよ執行するかという7月でございますので、私としては理解をしていただくかいただけないかは別として、執行するしかないということでございますので、当然執行についてはさせていただくが、これで何か改善すべき点がある、もしくは検討する余地が今後残されたのであれば、それは見直しをすればいいじゃないですかというような発言をさせていただいたのが、今、伊藤議員からご質問をいただいた部分でございます。

したがって、1,000円が1,500円がという、ちょっとそれは私記憶にないのですが、いずれもそういう話でございましたので、私としては要は予算化されたものについて、再度そこでいいとか悪いとかいう議論はまず考えにくいものですから、そういうお返事をさせていただいたということでございます。

以上です。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 今回の副町長の答弁ですと、7月の話で今年度も一緒の金額というのは、僕も納得できません。見直しされたらどうですかと言ったら、見直しの予算で上がってくるのですね。今年も去年と一緒の金額ですね。補助額が1,000円ということで。その辺、伺います。

議長（藤田 興一君） 樋口副町長。

副町長（樋口 和人君） どうも私のほうが勘違いをしておったようで、その時の議事録を読みますと、既に決まったことなので、この場ではお願いをして、ご理解を賜るしかない、11月、つまり昨年ですので、11月というのは、今のご提案申し上げている予算の編成の11月ごろの時期までには来年度に向けて検討を行うことをお約束するというお約束はさせていただきました。

ただそれが1,000円を1,500円にするということではなくて、やってみて、どこかに不備があれば、それを検討しましょうということでございますので、その後、11月の予算編成時において、いわゆる担当部局のほうから聞きました。それでどれぐらいの出席率があったのか、そしてどれぐらい効果的なことがあった



のか、あるいは自治会等々から申し入れが再度あったのかどうかということを知ったところ、特にそういう話はなく、先ほども生活福祉部長が紹介をされましたように、約半数の方が出ていただいた。それから経費のほうも少なくて済んだという報告を受けたものですから、当初の改正に当たっての趣旨と何ら変わらないということとを判断したため、今年度と同じ予算を来年度にもつけさせていただいたと、こういうのが経緯でございます。

以上です。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） 私も平成23年度の当初予算の時に、自治会でやっていただくということで大賛成させていただいて、実はもう金額はそれでいいんやという感覚を持っておりましてけども、やはり自治会でやっていただくに当たって、諸先輩の労をねぎらうということで、最低でも2,000円は要するというようなお話を伺いましたけども、昨年7月の副町長の話で、自治会長も多分1,500円になるのかという期待をされてみえたと思うんですわ。これからは私は自治会長に伺っておりますので、町民の方の代表でございますので、意見を尊重させていただいて、6月も9月も私は要求していきますので、その辺どうですかね、副町長、もう一度見直しのお考えというのはないですかね。

議長（藤田 興一君） 樋口副町長。

副町長（樋口 和人君） 再度ご質問いただきました。実は私、本当にこの制度を当時、私はいみじくも思っていたが、町長が見直そうということになって、それで見直していただいた結果、地域によって差はあるんですが、お年寄りの方の約2分の1の方が出ていただいたと。

しかも地域ですので、顔の見える関係の中で、お年寄りがそこで敬老会をしていただいたということについては、非常にありがたく思っていて、唐突なことであったかもわかりませんが、それを理解していただいて、自治会長や役員、あるいは関係者の方が奮闘していただいた結果だというふうに私も思っておりますので、この場をかりてお礼を言いたい気持ちでいっぱいでございます。どうもありがとうございました。

その上で今のご質問でございますが、お金の問題のお話でしたので、1,000円を1,500円、あるいは2,000円という、何か組合交渉みたいなことではなくて、本当にコミュニティがそこでできたことを、お互い行政も、それから地域も、これでうまくいったという例でいくのがいいのかなというふうに思っておりますので、大変申しわけございませんが、これからいろんなご質問をいただくかもわかりませんが、私としましては、これについて検討を加えて、数字等々をいろいろということについては、生活福祉部長がお答えしたとおり、今年度はこれでいかせていただきたいと、こんなふうに思っております。

以上です。

議長（藤田 興一君） 伊藤議員。

12番（伊藤 守一君） ぜひ1,500円の方角で検討をお願いしたいと思ひます。再度お願いしすけども。

最後になりますけども、敬老会の後、いろいろなことがありまして、一時金、交付金のこともありますけども、私から見させていただきますと、自治会長と急に話を出されて、コミュニケーションが不足しているのと違ひかなと私は思ひます。突然提案されて、自治会長が戸惑うというケースがあるので、もっとコミュニケーションを図っていただきたいなと思ひますけども、その辺で何か町長、ご意見がございましたら、ひとつよろしくお願ひ申し上げます。

議長（藤田 興一君） 水谷町長。

町長（水谷 俊郎君） 普段のコミュニケーションは図っているつもりでございますし、そして担当部局においても、気軽に自治会長さん寄っていただいて、いろいろな話をしていかれるということも聞いておりますので、ある程度コミュニケーションは図れるのかなというふうなことを思っておりますけれども、こういったたぐひのことは、基本的には町で決めていくものもたくさんございますので、その点はいきなりではないのですが、相談させてもらいながら、あるいはちょっと機能しているかどうかわからないんですけど、自治会長会の役員会というのもございますよね、そこで事前にいろいろな話をさせていただいてから、全体会に出させていいただひているというふうには我々は認識しておりますので、よろしくご理解をいただきたいというふうには思ひます。

議長（藤田 興一君） 終わりですか。

12番（伊藤 守一君） 終わります。

ありがとうございました。